

王寺町 防災ハザードマップ

▲昭和57年水害 久度地区
▲平成29年水害 本町地区

「警戒レベル」で避難のタイミングをお伝えします

警戒レベル1 情報に注意	警戒レベル2 避難行動の確認	警戒レベル3 避難 高齢者等は	警戒レベル4 全員避難
-----------------	-------------------	--------------------	----------------

警戒レベル5では既に災害が発生しています

令和2年 王寺町危機管理室 発行

風水害

氾濫流 (はんらんりゅう)...
堤防の決壊に伴う激しい流れのこと
氾濫流による家屋倒壊等
氾濫想定区域

河岸侵食 (かがしんしよく)...
激しい川の流れにより堤防や家屋の基礎を支える地盤が削られること
河岸侵食による家屋倒壊等
氾濫想定区域

あくまでも想定(目安)です。区域の周囲の方は早期避難を心掛けて下さい。

いざという時、あわてず、冷静に

日頃から避難に必要な物を用意しておくとともに、避難の手順について家族で打ち合わせをしておく、いざという時あわてず避難ができます。また、その時は、報道や町からの情報を確認し、一人で行動せず、必ずグループで行動するようにしましょう。

- 安全な避難路の確認を**
避難場所までの経路(避難路)は、あらかじめ自分たちで決めておき、安全に通行できるかを確認しておきましょう。
- 非常持出品の事前準備を**
避難する時の荷物は必要なもののみとし、事前に準備しておきましょう。
- 正確な情報収集と早めの行動を**
気象情報や報道により、災害の到来や規模があらかじめ想定できるときから、暴雨等が予想される場合は、遠方であっても安全な避難場所に早めに避難する。
- 避難の呼びかけに注意を**
気象情報や町が発令する避難情報を基に、住民各自で避難所に避難するか否かを判断し、町の指定緊急避難場所や自治会等であらかじめ決めておいた安全な施設へ避難する。
- 避難の呼びかけに注意を**
お年寄りや子ども、障害のある人は、早めの避難が必要です。避難に協力しましょう。
- 動きやすい服装、2人以上での避難**
避難するときは、動きやすい格好で、2人以上での行動を心がけましょう。
- 車で避難は控えて**
自動車での避難は緊急車両の通行の妨げになりますので、特別な場合を除きやめましょう。
- 足元に注意**
浸水している場所を歩くときは、さきり梯などを持ち、側溝や排水路に転落しないよう注意してください。
- 避難ルートの安全が確保できない時は**
避難ルートの安全が確保できない等緊急を要する場合には、浸水が及ばない物の上部階への垂直避難や、高台等への避難を行う。

土砂災害

土砂災害警戒区域(イエローゾーン)
崩壊等が発生した場合に、住民等の生命または身体に危害が生ずるおそれのある区域

土砂災害特別警戒区域(レッドゾーン)
崩壊等が発生した場合に、住民等の生命または身体に著しい危害が生ずるおそれのある区域

土砂災害の種類

台風や集中豪雨、地震などにより、いろいろな土砂災害が予想されます。特に造成地や、河川敷、山岳地帯などは、十分な警戒が必要です。土砂災害警戒情報に注意しましょう!

- がけ崩れ**
急な斜面によって緩み、とっぜん崩れ落ちる現象です。
- 土石流**
谷や渓流から、土砂や石、木を含んだ濁流が、すごい勢いで押し流される現象です。
- 地すべり**
比較的広い範囲にわりと雨水を含んだ土地が、ゆっくりと動き出す現象です。

土砂災害が起こる時

土砂災害のほとんどは、梅雨や台風の時期に発生しています。長雨や大雨により地面に大量の水がしみ込み、弱くなった斜面が崩れるためです。それらの前兆となる現象を理解しておきましょう。

- がけ崩れの前兆現象**
●がけから小石がバラバラと落ちてくるようになった時
●がけから水が湧き出た時
●がけに割れ目が見えた時
- 土石流の前兆現象**
●「山鳴り」といって、山全体がうなるような音がする時
●川の流れが濁ったり、濁水が湧いている時
●雨が降り続けているのに、川の流が滞っている時
- 地すべりの前兆現象**
●井戸の水が濁った時
●地面がひび割れたり、一部が陥没あるいは隆起した時
●池や沼の水の量が急激に変化した時

地震

海溝型地震 「東南海・南海(同時発生)地震」

活断層で発生する地震

「中央構造線断層帯地震」
「生駒断層帯地震」
「奈良盆地東縁断層帯地震」
「大和川断層帯地震」

想定される震源とマグニチュード

震源	マグニチュード	地震のタイプ
東南海・南海(同時発生)地震	8.6	海溝型(プレート型)
中央構造線断層帯地震	8.0	活断層
生駒断層帯地震	7.5	活断層
奈良盆地東縁断層帯地震	7.5	活断層
大和川断層帯地震	7.1	活断層

地震発生時の行動

命を守る ●落ち落ちて、自分の身を守る ●すばやく火の始末 ●ドアや窓を開けて、逃げ道を確保	家族を守る ●家族の安全を確認 ●火元を確認・初期消火 ●靴をはく ●必需品を手元に用意 ●余震に注意	5~10分 ●隣近所の安全を確認 ●ラジオなどで情報を確認 ●電話はなるべく使わない ●電気のリレーカーを切る ●家屋倒壊などのおそれがあれば避難	10分~数時間 ●協力して消火・救助活動 ●生活必需品は備蓄でまかなう ●災害情報、被害情報の収集 ●壊れた家には入らない ●引き続き余震に注意 ●避難場所では集団生活のルールを守る
--	---	---	--

ため池が危険なのはこんなとき!

豪雨時
●急激な水位上昇により、流水が堤体を越えようとする場合
●漏水が急激に増えた場合や漏水に濁りが生じた場合
●堤体が陥没し、漏水が生じた場合

地震時
●堤体の陥没やひび割れが発生し、急激な漏水量の増加や漏水に濁りが生じた場合

備え①

非常用持出品チェックリスト

避難時に必要最小限のものをすぐに持ち出すための「非常持出品」と、救援物資が届くまで自足するための「備蓄品」の2段階で準備しておくことが必要です。リストを参考に、個人や家庭で必要なものをしっかり準備しておきましょう。

項目をチェックしてみましょう。

- 携帯用飲料水
- 食品(非常食、缶詰、ビスケット、チョコレート等)
- 貴重品(預金通帳、印鑑、現金)
- ヘルメット(頭部を守るもの)
- 軍手
- 懐中電灯
- 衣類(防寒着・下着含む)
- 毛布
- 携帯ラジオ・予備電池・携帯電話(充電器含む)
- マッチ、ろうそく、使い捨てライター(水でぬれないようにビニールでくるむ)
- 使い捨てカイロ等季節商品
- ウェットティッシュ・タオル
- 液体・ハミガキ
- 筆記用具
- 救急用具(常備薬・救急セット)

備蓄品チェックリスト

避難した後、安全を確認して自宅へ戻り、自宅で避難生活を送ることや、避難所へ持ち出すことを想定し、最低でも3日分の生活に必要な備蓄品を備えておきましょう。

食料品

- 飲料水(1人1日3リットルが目安です。)
- 食料(缶詰、インスタント・レトルト食品、米、調味料)
- 給水用ポリタンク
- カセットコンロ(ボンベ含む)
- ティッシュペーパー・ウェットティッシュ・イレートペーパー
- 紙皿・紙コップ・割り箸・ラップフィルム
- 水のいらないシャンプー
- ビニール袋
- ランタン・ロウソク
- ロープ
- 長靴
- 工具セット

ローリングストック法

食料品・生活消耗品の備蓄には有効です。調理不要で保存期間の長い非常食などを備蓄するのの一つの方法ですが、普段使いの保存性の良い食料品の「買い置き」も有効な備蓄方法の一つです。消費期限を考えながら計画的に消費し、消費した分は新たに購入するようにしましょう。

日頃から備える

減った分を買い足す

古い物から食べる

ローリングストック法とは

家族構成や事情に合わせて必要なもの

必需品

- 持病薬・処方箋の控え
- 眼鏡・コンタクトレンズ用品
- 補聴器

女性用品

- 生理用品
- 鏡・ブラジャー

乳幼児用品

- ミルク・哺乳瓶用品
- 離乳食
- 紙おむつ

高齢者用品

- 紙おむつ
- 入れ歯・洗浄剤
- 杖

避難所チェックリスト

避難所の開設・運営においては、性別によるニーズの違いや子育て家庭等のニーズに配慮しましょう。

- 女子トイレ
- 照明、鏡の設置、女性用品の常備
- 更衣室や洗濯物干し
- 男女別スペースの設置
- 女性用スペースには、見回りなど安全面を配慮
- 授乳室
- 授乳専用部屋の設置
- 物資スペース
- 下着や女性用品等は同性が配布できるように役割分担

備え②

家の中の安全確認

置き方に工夫を

- 大きな家具は居室(特に寝室や幼児・高齢者・病人などが入る部屋)、ドアの出入口付近に置かない。
- 寝る場所、避難経路に家具等が倒れないように配置しない。
- 重量のある家電製品は高い位置、不安定な位置に置かない。

収納に工夫を

- 重いものは下に、軽いものは上に収納しましょう。
- 本棚などは、隙間をブックエンドで固定するなどの、なるべく空間を作らないようにしましょう。

照明器具の補強を

- 天井に直接取り付けタイプの照明を使用しましょう。
- つり下げ式のものは、鎖と金具を使って数カ所留めて補強しましょう。
- 蛍光灯は蛍光管の落下を防止するため、両端を耐熱テープで留めておきましょう。

家具等の転倒防止を

- 転倒防止金具 壁・柱・物置と家具を固定するタイプと家などに固定するタイプがあります。家具や室内の状況によって選びましょう。
- 重ね留め用金具 重ねた上での家具を固定し、上の家具の落下を防ぎましょう。
- 扉・引き出し開放防止家具 扉・引き出しが開かないようにしましょう。さらに収納物の落下を防止するために、棚板に滑り止めのふんばりなどを敷いたり、木やアルミ棒による飛び出し防止止めをつけ、ガラス面に飛散防止フィルムを貼るなど安心です。
- 家電製品やピアノなどにも対策を 転倒とは絡まないようですが、実は、倒れるだけでなく、横滑りしたり、宙を飛ばすといった事例があります。

家の周囲の安全確認

屋根 不安定な屋根のアンテナや、屋根瓦は補強しておきましょう。

窓ガラス 飛散防止フィルムを貼りましょう。

ブロック塀 ブロック塀はしっかり点検補強しておきましょう。

プロパンガス ボンベをしっかり鎖で固定しておきましょう。

外壁 モルタルの壁に亀裂がないか点検しておきましょう。

雨どい こまめな葉が溜まっていれば取り除きましょう。

ベランダ 植木鉢などの整理整頓を。

排水溝 側溝や雨水ますのゴミや土砂は取り除きましょう。

※青枠は風水害で赤枠は地震で注意することです。

ペットの災害対策

いざというときに備え、ペットの災害対策について考えましょう。

- 備蓄品の用意
- 5日以上フードと水、療法食、薬、予備の首輪、リード、ペットシート(トイレ用品)、食器
- 所有者明示
- 住居の防災対策
- ケージの固定、飼育場所の配慮(ブロック塀、ガラス窓などのそばは避ける)

心構え

みんなの力で安全安心なまちづくり

災害対策には自助・共助・公助の連携が大切です。

自助 「自分の身を自分で守る」こと。家族内での助け合いも含まれます。災害時には、自助の役割が7割以上を占めると言われます。

公助 「公的機関による助け」のこと。役場や消防、警察、自衛隊などの活動が挙げられます。公助の役割は1割もしくはそれ未満と言われます。

共助 「自分たちの地域を自分たちで守る」こと。王寺町で自衛隊などの活動が挙げられます。共助の役割は2割以上を占めると言われます。

互近助 「隣近所で助け合う」こと。日頃の「ご近所」付き合いが、災害時に家族や地域を守る助けとなります。

家族防災会議をしましょう!

災害はいつ起こるか分かりません。いざというときに、あわてず行動できるよう1回など定期的に家族で話し合い、災害時の行動を確認しておきましょう。

- 災害が発生したときの身の守り方
- 家の周辺の災害危険性(水害や土砂災害の危険性、家屋の点検)
- 家族の連絡先、連絡方法、災害用伝言ダイヤル・伝言板の使い方など
- 避難場所、避難経路
- 避難持出品・備蓄品の点検 など

避難行動要支援者のために

避難行動要支援者の方々を災害から守るために、地域で協力しあいがなされる支援を行います。平時から、地域で避難行動要支援者を把握し、支援する人や方法を決めておき、避難が必要なときは警戒レベル3が発令された時点で早めの避難が行えるよう地域で支援していきましょう。

高齢者・寝たきりの方のために

- 緊急の時は、おぶって安全な場所まで避難する。
- 複数の介助者で対応する。
- 不安を取り除くように声をかける。

目の不自由な方のために

- 緊急の時は、声をかけ、情報を伝える。
- 誘導する場合には、杖を持った方の手には触れず、ひざのあたりを軽くもって、半歩前をゆっくり歩く。

車いすをご利用の方のために

- 階段では、2人以上の協力が必要で、上からは前向き、下りは後ろ向きにして移動する。
- 介助者が1人の場合、ひもなどを活用し、おぶって避難する。

耳が不自由な方のために

- 話す時は、口の開け方を意識し、相手にわかりやすいようにする。
- 手話、筆談、身振りなどの方法で正確な情報を伝える。

自主防災組織と防災士

「自主防災組織」
地域住民が協力して自発的に防災活動を行う組織。平時の役割:防災訓練や学習会を実施し、防災知識の向上を図る。災害時の役割:情報収集・伝達や初期消火、避難誘導を行う。

「防災士」
日本防災士機構の研修課程を修了し、防災の知識・技能を有する方。平時の役割:「自主防災組織」の活動に積極的に参加し、地域の防災意識・防災力向上の中心となる。災害時の役割:「王寺町防災士ネットワーク」の一員として町と連携し、町内の被害調査や災害ボランティアセンター・避難所の運営を主導する。

※みなさんも積極的に自主防災組織へ参加、防災士の資格を取得し、災害に強いまちをつくらせていきましょう。

情報取得

災害時における情報伝達方法

王寺町では、さまざまな手段を用いて情報発信を行います。災害時の状況によって情報媒体も影響を受けますので、複数の手段を活用し、情報を入力していただきますようお願いいたします。

1 エリアメール(docomo)緊急速報メール(au、ソフトバンク、楽天モバイル)	緊急地震速報、避難情報、国民保護情報など極めて危険度の高い重要な情報に対応機種・スマートフォンにお知らせします。
2 防災行政無線	町全体や地域ごと避難情報や行方不明者情報などを屋外放送でお知らせします。緊急地震速報、特別警報、国民保護情報は即時に自動放送されます。【☎0745-31-1102】に電話すると放送を2時間後まで聞かれます。
3 王寺町安全安心メール	エリアメール、緊急速報メールや防災行政無線では伝えられない内容や平時の防災・防犯その他の行政情報をメールでお知らせします。
4 LINE	王寺町安全安心メールと同様の内容をスマートフォンのLINEでお知らせします。
5 防災アプリ	NHKやYahoo!などが提供するスマートフォン向けのアプリです。緊急情報を始め、あらゆる情報が取得できます。
6 王寺町公式ホームページ	トップページの緊急情報欄で避難情報などをお知らせします。
7 メディア	テレビ、ラジオやインターネットからも情報を取得できます。(NHKのデータ放送、気象庁HPなど)
8 その他	必要に応じて広報車や自治会を通じた連絡を行います。

※上のQRコードを読み取って登録が必要となります。詳しくは危機管理室へお問い合わせください。(QRコードは(株)デンソーウェーブの登録商標です)

登録方法

インターネットの接続及びメールの送受信可能な携帯電話やパソコンから登録サイトへ直接アクセスすると、QRコード読み取り機能付き携帯電話をお使いの方は右のQRコードを読み取り、案内に従って登録を行ってください。(メールの受信制限をかけている場合は、oji-t.jpからメール指定受信許可設定してください)

安全安心メール LINE

王寺町安全安心メール登録サイト <http://www.oji-t.jp/cel>

王寺町WEB版防災ハザードマップについて

王寺町では、令和2年4月上旬より、パソコンやスマートフォンでの閲覧がしやすく、浸水想定区域、土砂災害警戒区域、家屋倒壊区域、防災重点ため池のハザード情報を掲載した、「王寺町WEB版防災ハザードマップ」の運用を行います。

安否情報の確認

災害時、最も心配になるのが家族や友人の安否で、災害直後は電話などがつながりにくくなります。家族や友人と連絡を取るさまざまな方法を確認しましょう。

災害用伝言ダイヤルサービス171

災害用伝言ダイヤル「171」は、大規模災害が発生した時に被災地を提供するサービスです。伝言は、被災地にある固定電話の電話番号をキーとして伝言の登録や再生を行います。

【携帯電話】災害用伝言板サービス

携帯電話各社が圏域6割以上の地震など災害が発生したときに提供するサービスです。伝言は、被災地の人から携帯電話の番号をキーにして安否情報を文字で登録します。

伝言を残す(録音) 伝言を聞く(再生)

「171」にダイヤルする

「1」を押す 自宅の電話番号を市外局番からダイヤル

「2」を押す 自宅の電話番号を市外局番からダイヤル

30秒以内に伝言を入力する

録音された伝言を再生する

「登録」を選ぶ 携帯各社サイトのトップページ

「確認」を選ぶ 安否を確認したい相手の携帯電話番号を入力する

伝えない項目を選ぶ 伝えないことを書きこむこともできます

その画面で「登録」を選ぶ 伝言登録完了

その画面で「検索」を選ぶ 検索結果の表示

災害用伝言ダイヤルは、災害時に提供されるサービスですが、お話し期間として下記期間に制限があります。

- 毎月1日(5分/24時間実施)
- 防災週間(8月30日00:00~9月5日17:00)
- 防災ボランティア週間(1月15日00:00~1月21日17:00)
- 1月1日00:00~1月31日24:00 ※試験利用では、伝言の保管期間は60日間です。

他社の携帯電話やパソコンからも伝言を確認することができます。各社の携帯サイトのリンクからアクセスすることができます。